

まるやま
丸山D 遺跡

所在地 豊田市田折町丸山地内
(北緯 35 度 1 分 35 秒
東経 137 度 19 分 37 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成
事業

調査期間 平成 26 年 10 月～平成 27 年 1 月

調査面積 1,570 m²

担当者 成瀬友弘・石井香代子

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。本遺跡では、範囲確認調査において、被熱して赤く変色した土を検出しており、その周辺から古代の土器の破片がまとまって出土している。

立地と環境 本遺跡は、南北に延びた尾根の頂部に近い東斜面に位置し、標高は 485～491m である。調査前は杉・檜の植林地であった。また、南東斜面下には縄文時代から近世までの遺物が出土し、古代の竪穴建物を検出した孫田遺跡が位置する。孫田遺跡が面する谷を南下すると、やはり古代の竪穴建物を多数検出している栗狭間遺跡が位置する。

調査の概要 調査は、表土上で炭焼窯関連遺構の調査を実施した後、表土と包含層を外した地山上で遺構検出を行った。検出した遺構や遺物の大半は、古代のものであった。

古代より前の遺物としては、縄文時代の石鏃と剥片が出土している。石鏃はチャート製の凹脚のもので、完形で出土した。古代の竪穴建物の埋土からの出土であり、紛れ込んだものである。なお、この時代の土器や遺構は検出していない。

地山面で行った調査では、古代の竪穴建物 6 基 (009SI、040SI、147SI、075SI、050SI、051SI) をはじめ、溝や土坑を百数十基検出した。竪穴建物は、調査地の傾斜に合わせて残存している長辺部分が北東－南西の方向に掘削されていた。また、土師器瓶の比較的大きな破片や灰釉陶器の破片が多く出土している。

009SI は調査区の北端で検出した。南北長約 6.4m、東西の現存長約 3m であり、遺跡内では最大規模の竪穴建物である。竪穴の中央近くに石で方形状に組んだ炉跡を検出している。西壁に沿った周壁溝は、両端がそれぞれ南北隅で屈曲し東に延びる。この周壁溝と重なってピットを数基検出している。遺構内では多数の遺物が出土した。灰釉陶器の椀や土師器の甕が中心であるが、小瓶 2 点の他、瓶や砥石なども出土している。

040SI は、009SI の南で検出した竪穴建物である。検出時は南北長約 6m の規模とみていたが、周壁溝が壁の長さに対して短いこと、周辺に他にも炉跡を検出していることから、2 基の竪穴が切り合っている可能性が考えられる (149SI)。

147SI は、040SI の更に南に位置する。北壁で炉跡を検出している。炉跡付近で礫がまとまって出土していることから、石組みの炉があった可能性がある。

075SI は、147SI の南で検出した。竪穴内に被熱痕跡がみられた。東辺は、上記の他の竪穴建物と同じくはっきりと検出することはできなかった。

050SI と 051SI を検出した場所は、075SI の東の斜面下に当たる。この部分だけが上



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万「東大沼」)

方から緩やかな傾斜が続いて張り出し、やや広い緩斜面地を作り出していた。

050SI は、竪穴内で 2 カ所の炉跡とみられる被熱痕を検出している。また、北隅近くで多数の小土坑を検出したが、性格については不明である。

051SI は、050SI の北で検出した。竪穴の中央で 2 基の炉を検出している。両炉とも底面は被熱により硬化していた。また、炉の周囲では故意に床面を固くした場所が広がっていた。他の竪穴建物と比べ、この竪穴は炉が中心となるよう作られたようである。

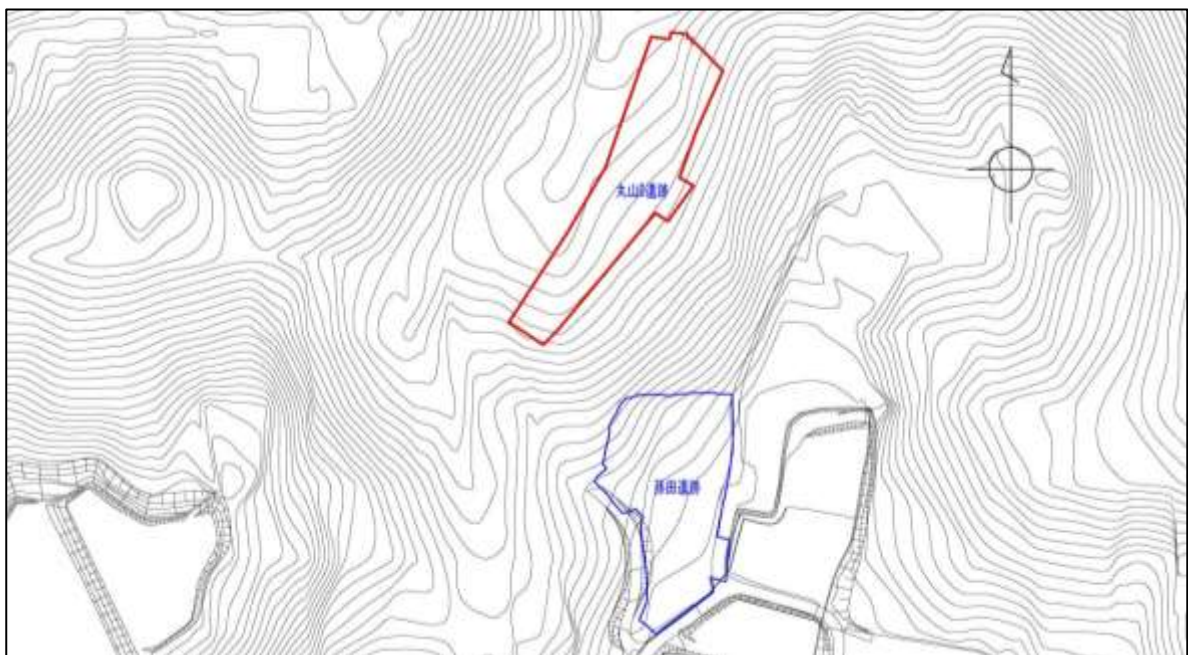
上記の他、周壁溝や竪穴建物の残骸と思われる溝や大型の浅い土坑を検出した。これらを加えると、さらに 2 基の竪穴建物の存在が考えられる。

土坑は大小様々であり、竪穴建物の周辺を中心に検出している。遺構内の遺物は、そのほとんどが、灰釉陶器片や土師器甕の破片であり、竪穴建物と同時期のものとみられる。

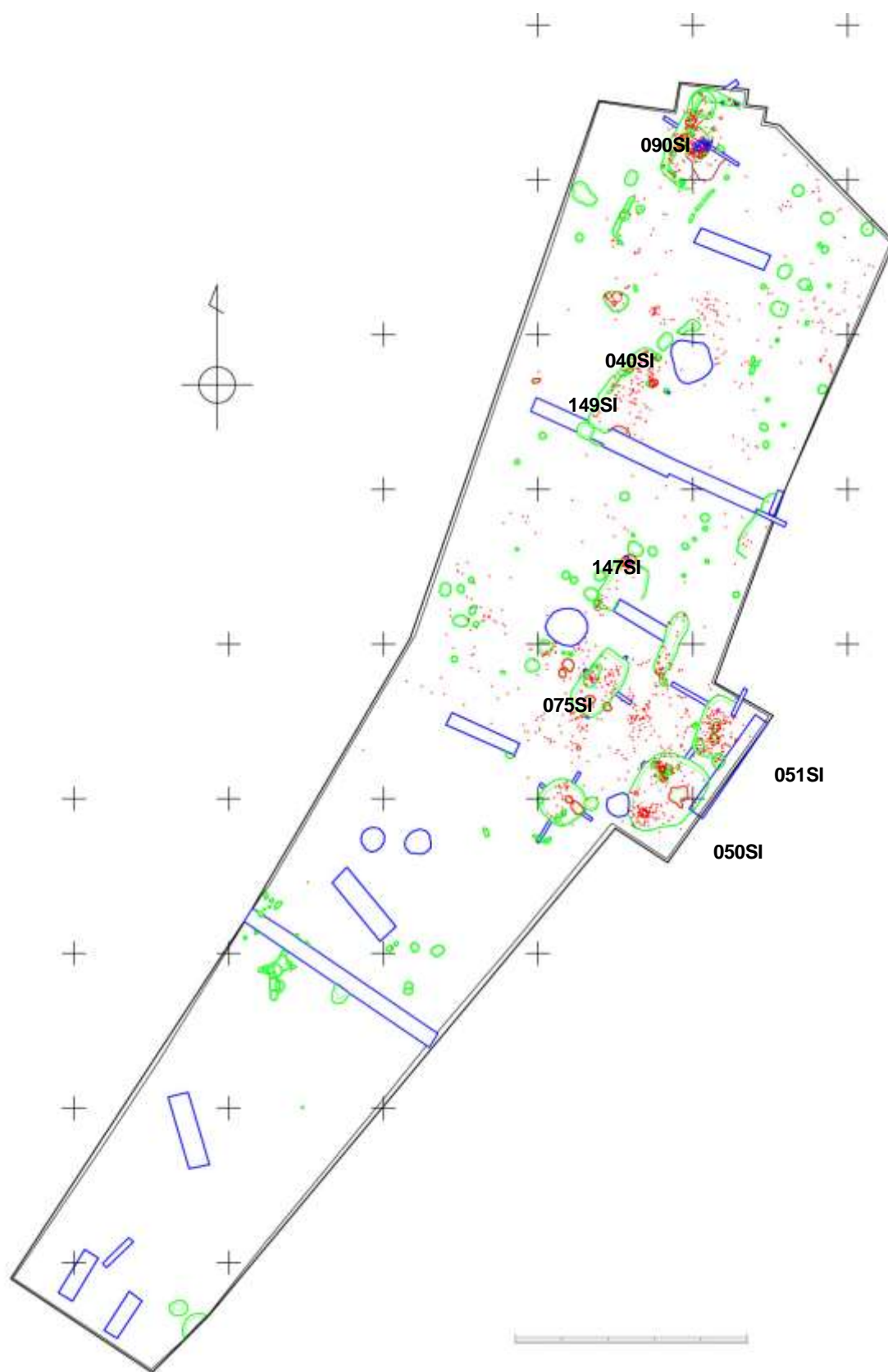
近世以降の遺構では、表土上の調査で炭焼きに利用した土坑を 5 カ所で検出した(001SK、002SK、003SK、004SK、005SK)。001SK では数回の掘り直しをしながら利用していたことを確認した。001SK と 002SK では遺構の下方に巨大な土手が形成され、数回の盛り直しを見ることができた。この時期に伴うものとして土師質の土器片が出土している。

ま と め 丸山 D 遺跡は、尾根に近い斜面に営まれた遺跡である。周辺では孫田遺跡や栗狭間遺跡といった古代を中心とする遺跡が展開しており、本遺跡でも同時期の遺物が多数出土した。孫田遺跡との間には遺構・遺物共に確認されない場所が広がっており、両者は別の遺跡と考えられるが、同時期に存在した両者の関係は興味深い。

また、竪穴建物中央に石囲いの炉を伴うものや、炉を中心に備えて作業が行われていたらしい竪穴建物など特徴的な遺構もあり、周辺の事例と比較しながらそれらのもつ意味や遺跡の役割を考える必要があると思われる。(石井香代子)



丸山 D 遺跡 調査区図 (1:2,000)



丸山 D 遺跡 遺構配置図 (1:400) 赤ドットは遺物出土地点を示す



009SI 床面検出状況



009SI 遺物出土状況 (小瓶)



009SI 内の石囲い炉検出状況 1
周辺からは土器片が多数出土している



009SI 内の石囲い炉検出状況 2
さらに崩れた礫を外したところ



040SI (149SI) 完掘状況



040SI 周壁溝部分



147SI 完掘状況



147SI の炉部分と遺物出土状況



075SI 完掘状況



050SI、051SI 検出状況



050SI 完掘状況



050SI 埋土出土の石鏃



051SI 完掘状況



051SI 内の炉跡検出状況



051SI 遺物出土状況



009SI 出土遺物 (小瓶)



D区北半 遺構集中地区空撮



D区全景 (上が南東)